

主要枕詞ことば一覽

ある語句を言い起すために、その前に置かれる語。五音節以下で、かかる語との関係は固定的である。上段が枕詞・下段がかかる語。

あ

あがころ [吾が心・我が心] 明石 [あかし・清隅^{きよぐも}・筑紫^{ちくし}]
あかねさす [茜さす] 日・昼・光・紫・君

あきぎりの [秋霧の] 晴る・おぼつか
なし・籠^{かご}る

あきやまの [秋山の] したふ・したひ・色なつかし

あさがすみ [朝霞] 鹿火屋^{しかや}・八重^{やえ}・春日^{はる}

あさぎりの [朝霧の] 乱る・惑^{まど}ふ・おほ^{おほ}おほる^{おほ}・八重^{やえ}

あさごほり [朝水] 解く [うち解ける] 疾^{はや}く

あさちは [浅茅原] つばらつばら [うくまなく・まんべんなく] 小野^の

あさぢふの [浅茅生の] 野・小野^ののち・置く

あさもよし [麻裳よし] 紀城^{きじょう}あしかきの [葦垣の] 古^{ふる}・思ひ乱る

あしがもの [葦鴨の] うち群るあしたつの [葦鶴の] 音泣く・たづたづたし

あしねはふ [葦根這ふ] 下・憂きあしのねの [葦の根の] ねころも・短

し・分く・渥^し・節・憂き・世・夜

あしひきの 峰・山・尾の上・岩根・葛城^{かき}から山・笛吹^{ふえ}・山・岩倉^{いわくら}・山

あぢさはふ 日・夜昼知らずあづさゆみ [梓弓] い・いる・ひく・はる・本・末・音^{おと}

あはしまの [粟島の] 逢はじあまはし [天雲の] たゆたふ・はるか・ゆくらゆくら・行く・別れ・別る・奥

あまさか [天離る] 鄙^{ひろ}・泉^{いづみ}・向かふ

あまつたふ [天伝ふ] 日・入り日あまとぶや [天飛ぶや] 鳥・雁^{かり}・軽^{かる}

あまをぶね [海人小舟・蟹小舟] はつあらかねの [租金の] 土

あらたへ [荒砂の] 藤^{ふじ}あらたまの [新玉の・荒玉の] 年・月・日・春

あらひきぬ [洗ひ衣] 取替川^{とりかひ}あり

ありそなみ [荒磯波] ありあわゆきの [泡雪の・沫雪の] 消け

あをによし [青丹よし] 奈良あをはたの [青旗の] 忍坂^{しのさか}の山・木

あをやぎの [青柳の] 糸・葛城山^{かき}・幡^{はた}・葛城^{かき}から山

いさなとり [鰯取り] 海・浜・灘^{なだ}いそのかみ [石上] 古る・降る・振る

細き眉根^{まゆね}

いははしの [石橋の] 間・遠し・近しいははる [石走る] 滝・垂水^{たき}・近江^{おうみ}

いゆししの [射ゆ獣の] 行き死ぬ・心痛し

うたかたの [泡沫の] 憂き身うちなびく [打ち靡く] 草・黒髪・春

うちよす [うち日さす] 駿河^{しゅんが}・うちよする [ち寄する] 宮城^{みやぎ}

うづせみの 世・人・命・身うばたまの [烏羽玉の] 黒・夜・髪・夢

うまさけ [旨酒・味酒] 三輪^{さんりん}・三室^{さんしつ}うもれぎの [理もれ木の] 下・人知れぬ・隠^{かく}る

おきつなみ [沖つ波] 競^きはふ・頻^{しきり}く・挽^ひむ・高し

おきつもの [沖つ藻の] なびく・隠^{かく}る

おくつゆの [置く露の] 斯^{しか}かる・阿田^{あで}・白麻衣^{しろまゐ}・玉造江^{たまづり}・玉江^{たまえ}

おしる [押し照る] 難波^{なんば}におほきみの [大君の] 三笠山^{さんかさ}

おほくちの [大口の] 真神^{まかみ}おおとの [天伴の] 御津^{みつ}・見つ・高師^{たか}

おほぶねの [大船の] 思ひ頼む・津・渡り・たゆたふ・ゆた・ゆくらくゆく

ら・香取^{かとり}

かきつばた [杜若・燕子花] につらふ

かぎろひの [陽炎の] 春・心・燃ゆ・はのか

かくれぬの [隠れ沼の] 下・水隠^{みづかく}り

かたいとの [片糸の] よる・より・くる

かむかせの [神風の] 伊勢からころも [唐衣・韓衣] 着る・裁つ・裾^{すそ}・袖^{そで}・返^{かへ}・紐^{ひも}

からこもの [刈り菰の] 乱る

かのかやの [刈萱の] 乱る・思ひ乱る・穗^ほに出づ

くさまくら [草枕] 旅・旅寝^{りど}・度^{たび}・多胡^{たこ}・結^{むす}・夕^{ゆふ}

くすのは [葛の葉の] 心・恨めし・恨み

くれたけの [呉竹の] 伏し・伏見・代^よ・世・夜

くれなるの [紅の] 色・浅^{あさ}・うつし・振り

くれはとり [呉織・呉服] 綾^{あや}・怪^{あや}・ながき

こもりくの [隠りくの] 泊瀬^せこゆるぎの [小余綾の] いそ・急ぎ

こもでの [衣手の] 別る・帰る・田上^{たかみ}・高屋^{たかや}

さきくさの [三枝の] 三^{みつ}・中^{なか}・さき

さきかの [細枝の] いと・いづこ・いのち・いふ

ささなみの [小波の・細波の] 寄る・夜・怪^{あや}

さすたけの [刺す竹の] 君皇子^{みま}大宮

さきくさの [三枝の] 三^{みつ}・中^{なか}・さき

さきかの [細枝の] いと・いづこ・いのち・いふ

ささなみの [小波の・細波の] 寄る・夜・怪^{あや}

さすたけの [刺す竹の] 君皇子^{みま}大宮

さきくさの [三枝の] 三^{みつ}・中^{なか}・さき

さばへなす【五月蠅なす】荒ぶ・騒ぐ
しきしまの【敷島の・磯城島の】大和
しきたへの【敷き袴の・敷き妙の】
枕・袖・衣・黒髪・袂・家
しなてるや【絳照る（や）】片岡山・
鳩・海
しらくもの【白雲の】立つ・絶ゆ・竜
田
しらたまの【白玉の】緒・絶えの橋・
を止む・縋捨山
しらつゆの【白露の】おく・消ゆ・た
ま
しらなみの【白波の】よる・あと・な
ごり・うち・かへる・いちしろし
しらたへの【白袴の・白妙の】衣・袂
袖・藤・雪雲・波
すがのねの【菅の根の】長・乱る・
ねもころ
そらみつ やまと（大和・倭）

た

たかてらす【高照らす】日・ひ
たかひかる【高光る】日・ひ
たくなはの【袴繩の】長し・千尋
たまかぎる【玉かぎる】日・夕・ほの
か・磐垣淵
たまかつら【玉勝間】あふ・安倍・あ
たまかつら【玉葛・玉蔓】遠し・長し・
這ふ・絶ゆ・実ならぬ樹・花のみ咲
く
たまかつら【玉蔓・玉縷】かけ・かげ・
おもかげ
たまきはる 命・うち・幾世（幾代）
たましくけ【玉櫛笄】ふた・箱・覆ふ・
あく・奥・み

たまだすき【玉櫛】かく・うね
たまだれの【玉垂れの】越智・小簾
たまつさの【玉梓の】使ひ・妹・人
たまのをの【玉の緒の】絶ゆ・長し・
短し・つつ
たまほこの【玉梓の】道・里
たまもかる【玉藻刈る】敏馬・辛荷
に・沖・をとめ
たまもなす【玉藻なす】浮かぶ・寄る
・なびく
たらちねの【垂乳根の】母・親
ちはやぶる【千早ぶる】神
つがのきの【梅の木】の つぎつぎ
つきくさの【津の国】の 名には 流す
・ながらふ・此や・来や・見つ
つのはさふ いは（岩石）
つゆしも【露霜の】秋・置く・消け・
寒さ
つるぎたち【劔太刀】名・己・身・と
ぐ
とぶとりの【飛ぶ鳥の】あすか
とほつひと【遠つ人】松・雁・無道
としびの【灯火の】明石
とりがなく【鳥が鳴く・鶏が鳴く】
東・うま

な

なつくさの【夏草の】野鳥・思ひしな
ゆ・あひね・茂し・深し・かりそめ
なつころも【夏衣】ひとへ・うすし・
裁つ・着る・すそ・ひも
なよたけの【弱竹の】とをよる・夜・
世・齢
なるかみの【鳴る神の】音
にはたつみ【庭漣・行漣】流る・川

にほどりの【鴉鳥の】潜・葛飾・
なづさふ・息長・二人並び居る
ぬえどりの【鶴鳥の】のどよふ・うら
なく・片恋
ぬはたまの【射干玉の・野干玉の】
黒・夜・闇・夕・髪・夢・月
は 是なすすき【花薄】はにいづ・ほのか
ははそよの【柞葉の】母
はふくすの【這ふ葛の】遠長し・後の
・行く・へ・絶えず・下・たづぬ
はるがすみ【春霞】春日・立つ・立
田・居る・井・よそ
ひささの【久方の】光・天・月・日
雨・雲・都
ふかみゐの【深海松の】深む・見る
ふゆごもり【冬籠り】春・張る
ふるゆきの【降る雪の】消・行き・白
髪・糞代衣
ま まかねふく【真金吹く】吉備・丹生
まきばしら【真木柱】ふと
まきもかる【真孤柱の】淀・堀江・美
豆・玉江
まさかがみ【真澄鏡】見る・掛く・清
し・磨く・照る・面影・影
まがつねの【松が根の】待つ・絶ゆる
ことなく
みこころを【御心を】吉野・広田・長
田
みつづきの【水茎の】水城・岡
みつとりの【水鳥の】うき・たつ・鴨
みつつし 賀茂・青葉
久米

みなせがは【水無瀬川】下
むらきもの【群肝の・村肝の】こころ
むらとりの【群鳥の】朝立つ・立つ
もつぎの【望月の】たはし・足
れる・めつらし
ものふの【物部の・武士の】八十・
五十
ももしきの【百敷の・百磯城の】大宮
ももつたふ【百伝ふ】八十・五十
や やくもさす【八雲さす】出雲
やくもたつ【八雲たつ】出雲
やすみし【安見知し・八隅知し】
わが大君・わご大君
やまがはの【山川の】たぎつ・おと・
あさ・はやし
やますげの【山菅の】やまず・乱れ・
背向
ゆくどりの【行く鳥の】争ふ・群がる
ゆふだすき【木綿襦】かく・むすぶ
ゆづつよ【夕月夜】晩間
ら・入る
わ わかくさの【若草の】夫・妻・新
わきもこに【我妹子に】逢坂・山・淡
海
わきもこを【我妹子を】いざみの山・
早見の山
をしどりの【鶯鶯の】憂き
をとめらに【少女らに】行きあひ・逢
坂・山